

## 町田市リユースモデル事業 報告書

## 1. リユースモデル事業の概要

## (1) プランの概要

2012年12月から2013年2月までの3ヶ月間、毎月「リユースの日」を設定し、町田市の外郭団体である「まちだエコライフ推進公社（以下、公社）」とリユース業界の協力を得て、使用済み製品のリユース事業を行う。

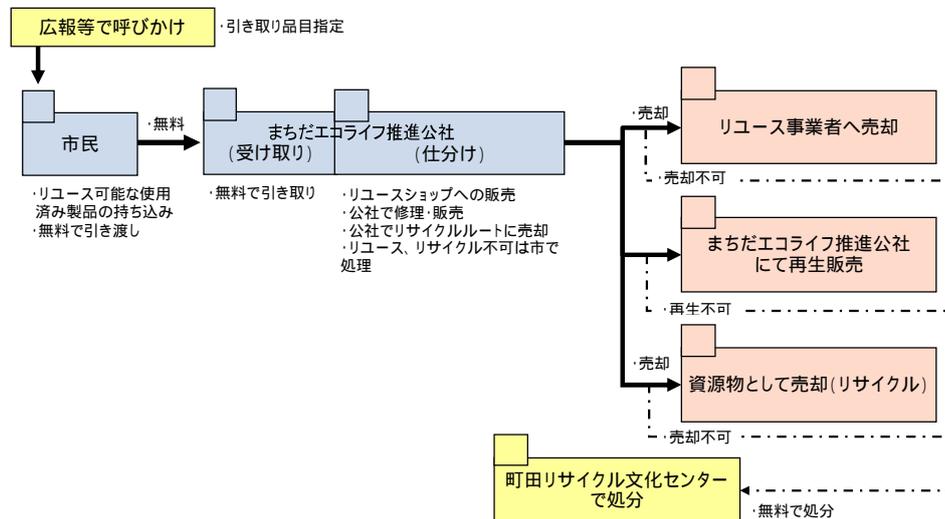
市民にリユース可能な使用済み製品の持ち込みを呼びかけ、「リユース品受け取り場所」で、公社が無償で受け取る。公社は、従来の修理再生販売だけでなく、リユース業界の協力を得て、受け取った物をリユース市場で流通させることで、リユースを促進する。公社が事業の実施を担い、市は実施に向けた調整、周知、検証などを行う。

4社のリユース事業者（キングファミリーFC 本部 株式会社 Kurokawa、株式会社パシフィックネット、株式会社トレジャー・ファクトリー、ブックオフコーポレーション株式会社）と連携する。

まちだエコライフ推進公社

町田市が推進する環境施策に協力し、持続可能な循環型社会の実現に寄与することを目的として設立された市の外郭団体。粗大ごみの収集、リサイクル広場の運営、再生販売などの事業をおこなっている。

## 町田市モデル事業の概要（フロー図）



市民がリユース可能な使用済み製品を持ち込む。  
 まちだエコライフ推進公社は無償で引き取る。  
 まちだエコライフ推進公社は、リユース事業者へ売却、公社で再生販売、リサイクルルートに売却するものに仕分ける。  
 リユース事業者へ売却する。リユース事業者は、自社の販売ルートで市場に流通させる。  
 まちだエコライフ推進公社は、リユース業者へ売却しないものを修理再生販売する。  
 まちだエコライフ推進公社は、リユース不可な製品をリサイクルルートに売却する。  
 リユース不可でリサイクルルートへの売却も不可能な製品は、町田市が処分する。

## 町田市モデル事業の実施スケジュール

	10月			11月			12月			1月			2月			3月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
協力リユース事業者の募集・決定・調整	→																	
広報掲載依頼、PRチラシの準備				→			→											
HPの準備				→														
効果測定のためのアンケート内容の検討				→														
PRチラシ印刷・配布				→			→			→								
広報掲載																		
事業実施(12月～2月)							→											
「リユースの日」開催							12/8・9			1/19・20			2/16・17					
利用者向けアンケート調査																		
利用者向けアンケートの集計・分析																		
関係者への聞き取り調査																		
効果の取りまとめ																		
報告書作成																		

## (2) 広報・PRの方法

市のホームページや広報紙での案内に加え、12月は廃棄物減量等推進員を通じて市内約300の町内会・自治会にチラシの掲示・回覧等を依頼、また1月には新聞折込みでチラシを配布した。このほか、「リサイクル広場まちだ」や公社の再生販売店舗、協力リユース事業者の市内店舗、市民センター等でもチラシの配布を行った。

## &lt; チラシ配布 &gt;

- ・12月実施分・・・白黒印刷、3500枚

配布先：廃棄物減量等推進員、清掃工場地域情報ネットワーク構成自治会・町内会、  
公共施設14施設、公社窓口、協力事業者1店舗

- ・1月2月実施分・・・カラー印刷、135,000枚

新聞折込み：1月17日(木) 133,725世帯

その他配布先：廃棄物減量等推進員、公共施設12施設、公社窓口、協力事業者3店舗

## &lt; 広報 &gt;

町田市ホームページ、「広報まちだ」3回、「環境広報紙ECOまちだ」1月11日号、  
市政情報モニター「まちビジョン」(市役所・各市民センターで放送)1月、2月



## 2. モデル事業の利用状況と効果

### (1) モデル事業の利用状況

- ・ 2012年12月8日(土)・9日(日) 2013年1月19日(土)・20日(日) 2月16日(土)・17日(日)の6日間実施した。  
全日程、晴れ。受付時間は、9時から15時まで。
- ・ 12月は188件、1月は205件、2月は183件の利用があった。
- ・ 持ち込み受付後に、来場者にアンケートを実施した。
- ・ 当日中にリユース事業者が来場し、リユース品の選定・計量等をしたのち引き取った。

開催日	12月		1月		2月		合計
	8日(土)	9日(日)	19日(土)	20日(日)	16日(土)	17日(日)	
受付件数	90件	98件	104件	101件	94件	89件	576件
月合計	188件		205件		183件		
引き取り重量	1,079.0 kg	1,325.6 kg	1,461.1 kg	1,213.1 kg	1,218.9 kg	1,250.6 kg	7,548.3 kg
月合計	2,404.6 kg		2,674.2 kg		2,469.5 kg		



<市民のリユース品持ち込みの様子>



<アンケートの様子>



<スポーツ、レジャー用品など>



<家電製品>



<衣類・ぬいぐるみなど>



<携帯電話・ゲーム機器類など>



<リユース品の選定(衣類)>



<リユース品の選定(スポーツ用品)>

## (2) モデル事業の効果

### リユース実績

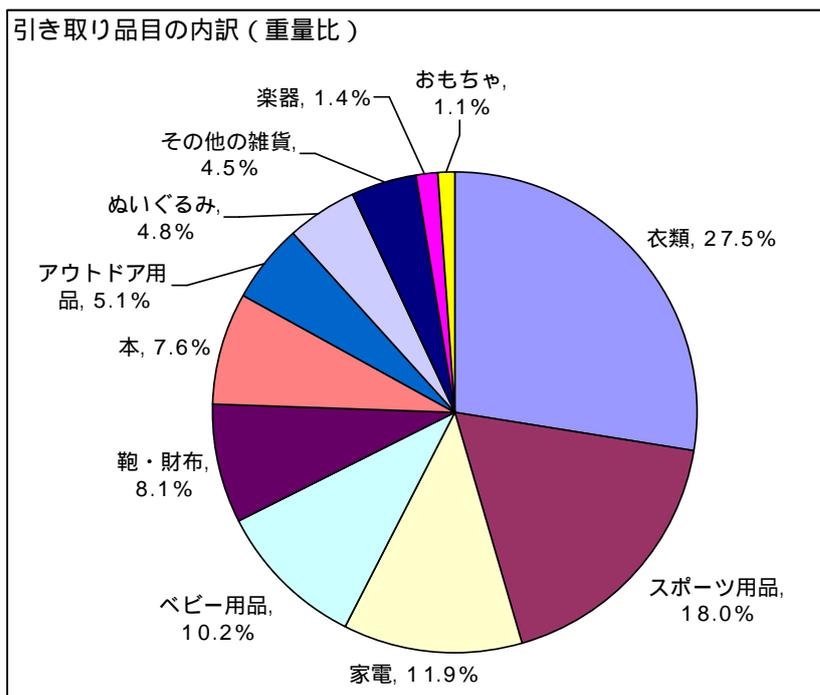
#### ア.引き取りについて

リユース事業者が買い取り可能な製品、清掃工場での処分が難しい製品などに品目を限定して、引き取りを実施した。得意分野の異なる複数のリユース事業者の協力を得たことで、幅広い品目を具体的に示すことができ、多くの製品を持ち込んでいただくことができた。

引き取り量は、各回とも 1,000～1,500kg 程度で、6 回の合計が 7,548.3kg であった。

品目では、市が週に 1 回「古着」として収集している衣類の割合が 3 割弱 (27.5%) と一番多く集まった。

開催日	12月		1月		2月		合計
	8日(土)	9日(日)	19日(土)	20日(日)	16日(土)	17日(日)	
引き取り重量	1,079.0 kg	1,325.6 kg	1,461.1 kg	1,213.1 kg	1,218.9 kg	1,250.6 kg	7,548.3 kg
月合計	2,404.6 kg		2,674.2 kg		2,469.5 kg		



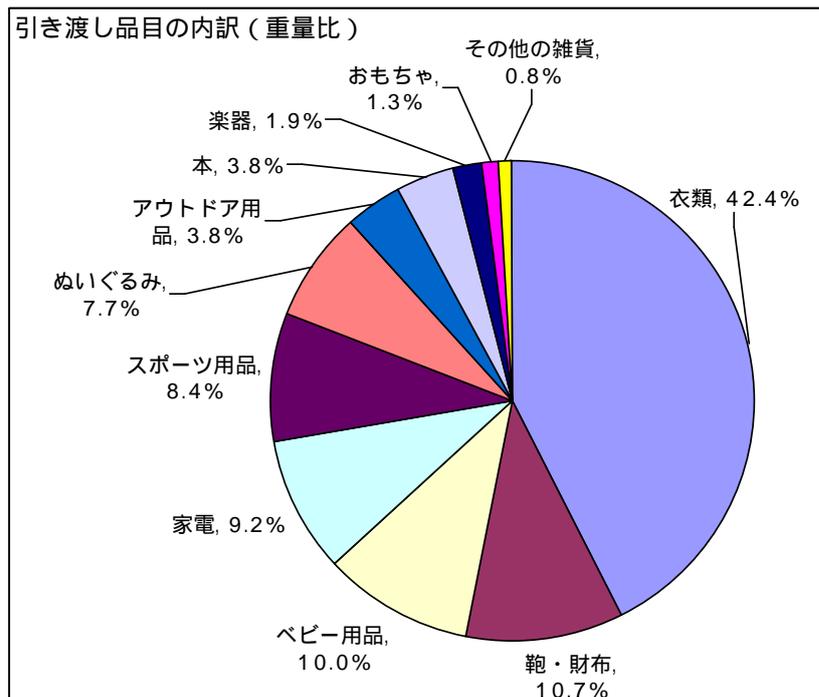
イ.リユース事業者への引き渡しについて

6回の開催で、9,751点 4,615.8kgの製品をリユース事業者に引き渡すことができた。

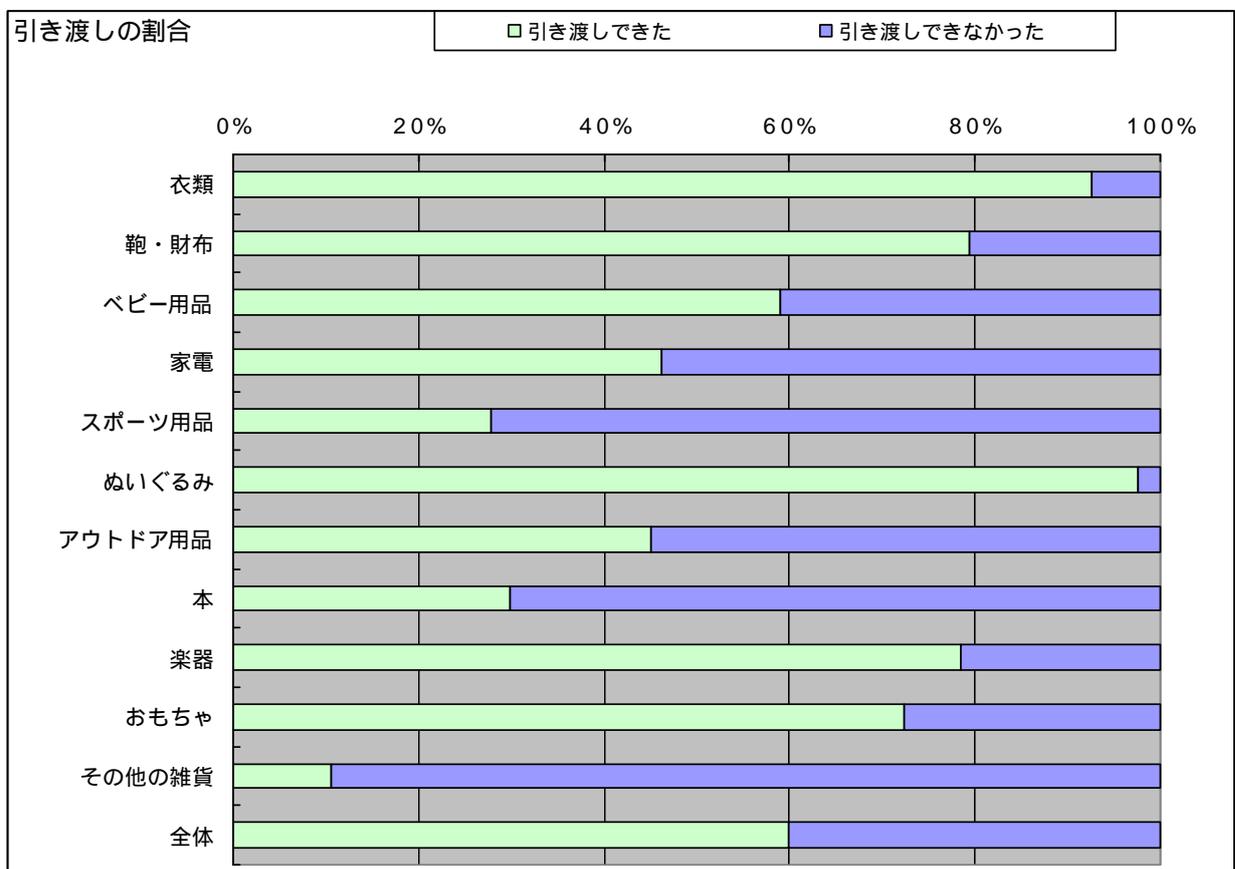
引き取り量と同じく、衣類の割合（42.4%）が1番多かったが、幅広く様々な品目を買い取っていただくことができた。

12月の結果を踏まえ、リユース事業者と協議して品目を拡大したことにより、1月、2月はより多くの製品を引き渡すことができた。

開催日	12月		1月		2月		合計
	8日（土）	9日（日）	19日（土）	20日（日）	16日（土）	17日（日）	
引き渡し数量	1,007 点	1,392 点	1,955 点	1,428 点	1,641 点	2,328 点	9,751 点
月合計	2,399 点		3,383 点		3,969 点		
引き渡し重量	591.7 kg	693.5 kg	921.8 kg	790.4 kg	778.1 kg	840.3 kg	4,615.8 kg
月合計	1,285.2 kg		1,712.2 kg		1,618.4 kg		



引き取った製品の約 6 割をリユース事業者に引き渡すことができた。品目別では、衣類、ぬいぐるみが 9 割を超えるのに対し、本、スポーツ用品は、3 割に満たない結果となった。品目により、リユース品として流通させやすいもの、そうでないものがあった。



## ウ.買い取り実績について

6 回合計の買い取り実績は、9,751 点で約 30 万円（未確定額）だった。買い取り点数で約 6 割を占める衣類は、買い取り金額に占める割合は 6.4%と小さかった。スポーツ用品・ベビー用品・楽器は、買い取り点数は少なかったものの、高額のついたものがあった。

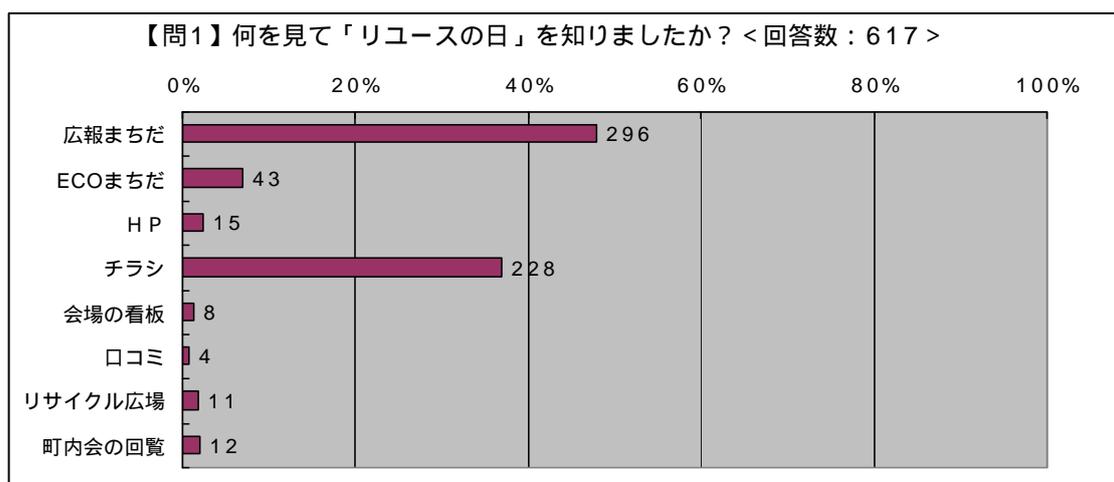
品 目	買い取り点数		買い取り金額（円）	
衣類・靴・帽子等	5,650	57.9%	19,247	6.4%
ぬいぐるみ	1,845	18.9%	3,565	1.2%
鞆・財布	950	9.7%	8,703	2.9%
スポーツ用品	766	7.9%	107,700	36.1%
家電等	185	1.9%	17,650	5.9%
その他の雑貨	108	1.1%	2,895	1.0%
アウトドア用品	107	1.1%	29,925	10.0%
ベビー用品	75	0.8%	47,830	16.0%
本	31	0.3%	17,460	5.8%
楽器	18	0.2%	39,410	13.2%
おもちゃ	16	0.2%	4,210	1.4%
合 計	9,751	100.0%	298,595	100.0%

（未確定）

## 来場者アンケート結果

## ア.「リユースの日」の広報効果

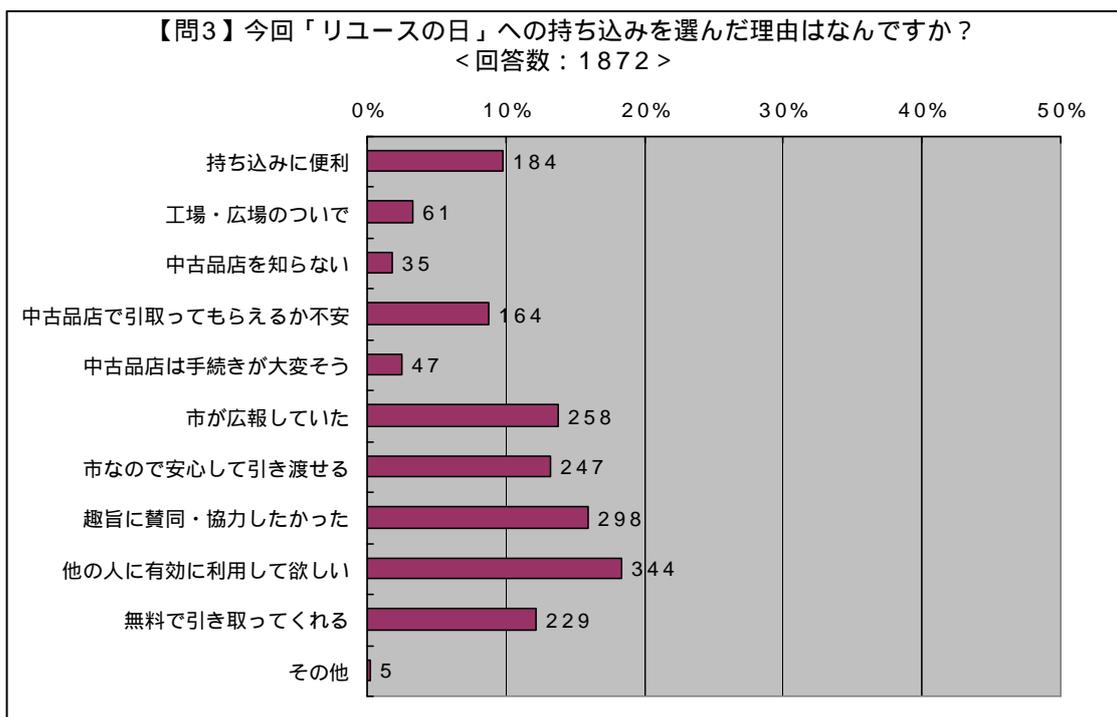
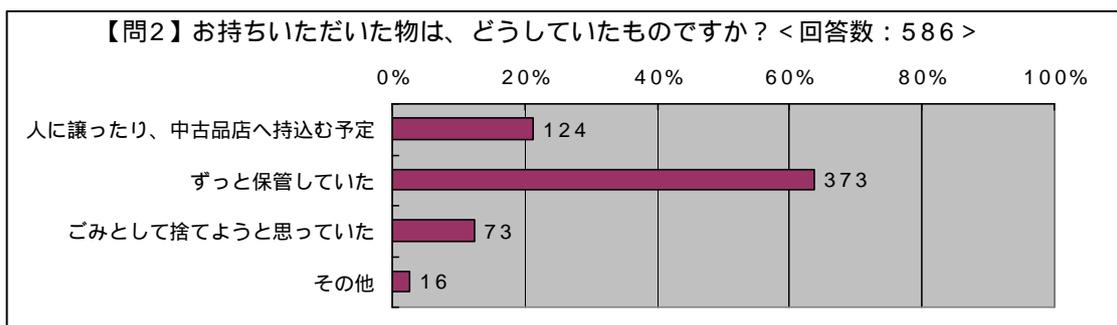
市の広報紙「広報まちだ」を見て来場した市民が 48%で最も多かった。1 月に新聞折込みによるチラシの配布をおこなったため、1 月・2 月の開催時には「チラシ」の回答が増加した。廃棄物減量等推進員が地域でチラシの回覧をおこない、リユース品を取りまとめて持ち込んだ例もあった。



イ. 持ち込みの動機

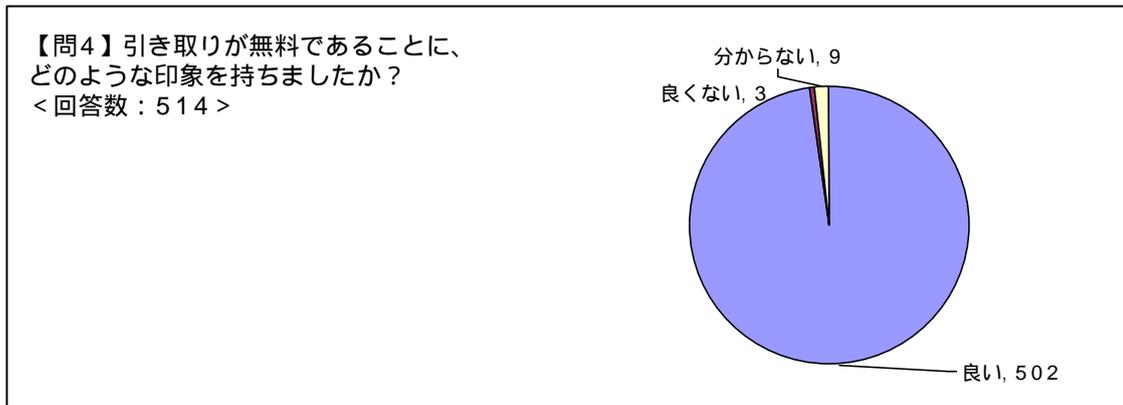
持ち込んだ物について、「ずっと保管していた」とする回答が 63.7%だった。「他の人に譲ったり、中古品店などに持ち込もうと思っていた」との回答は 21.1%だった。

「リユースの日」への持ち込みを選んだ理由では、「使用する人がいれば有効に利用してほしい」との回答が 18.4%で最も多く、次いで「趣旨に賛同・協力したかったから」が 15.9%だった。「市が広報していたから」、「市の事業なので安心だから」、「無料で引き取ってくれるから」との回答が続いた。



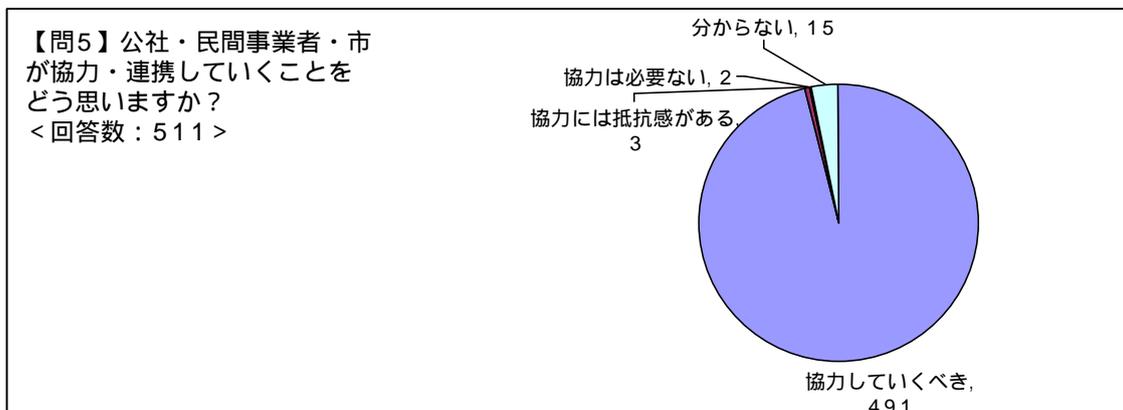
ウ．引き取りが無料であることについて

無料であることを「良いと思う」とする回答が 97.7%だった。無料であればごみとして捨てないインセンティブになる、無料であることが持ち込むきっかけになった、とする意見が見られた。「良くない」と回答した方の意見として、「次に売却されると思うと（無料は）納得いかない」、「無料にすることで使えないものを持ち込む人もいると思う」などがあった。



エ．公社・事業者・市が連携することについて

協力するべきとする回答が 96.1%だった。「市だけでは限界があるので協力していくべき」などの意見が見られた。

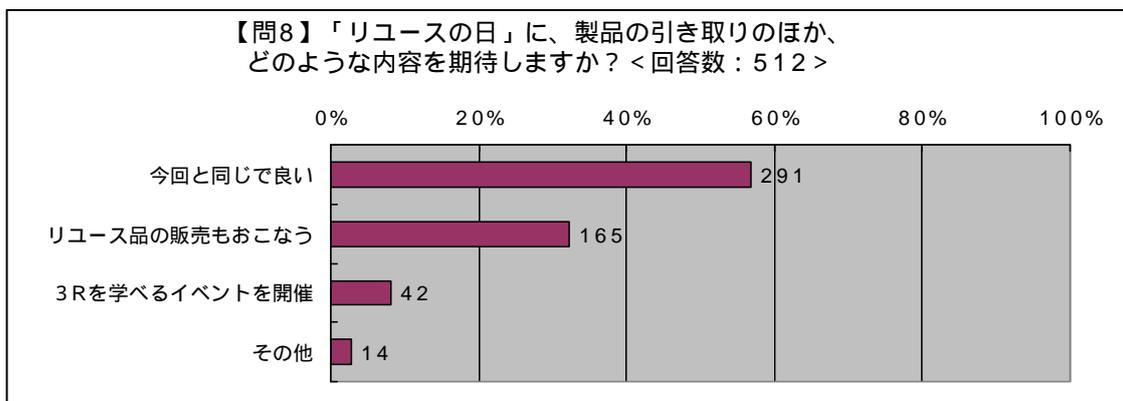
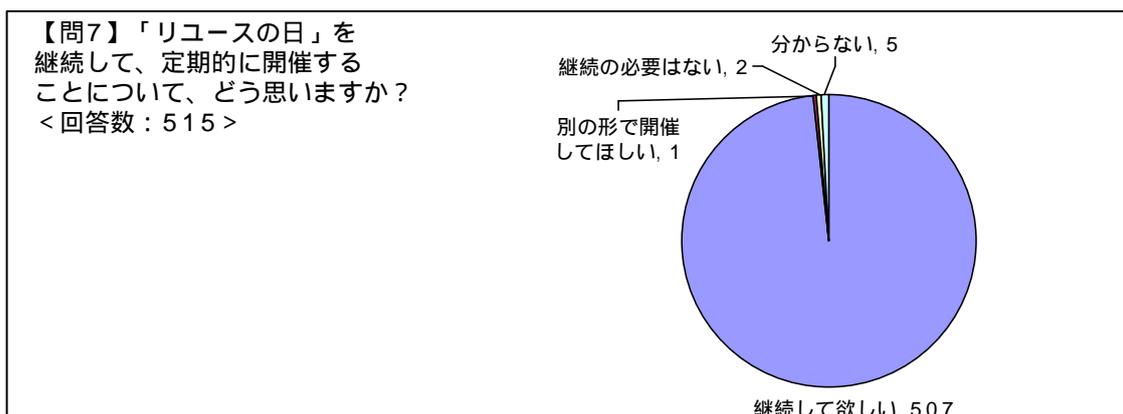
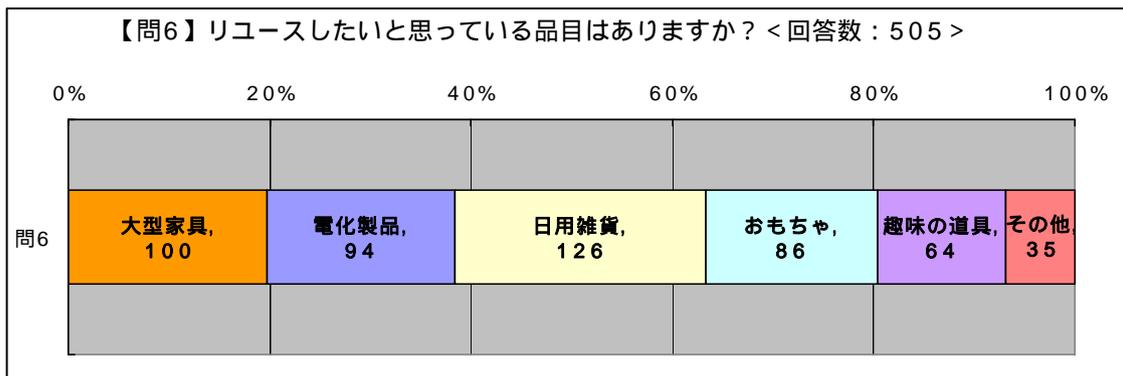


オ.「リユースの日」に期待すること

リユースしたいと思っている品目については、日用雑貨、大型家具、電化製品の順で回答が多かった。具体的な品目としては、イス、テーブル、たんす、食器、文具などが多くあげられていた。

今後の「リユースの日」の開催については、「継続してほしい」との回答が98.5%だった。

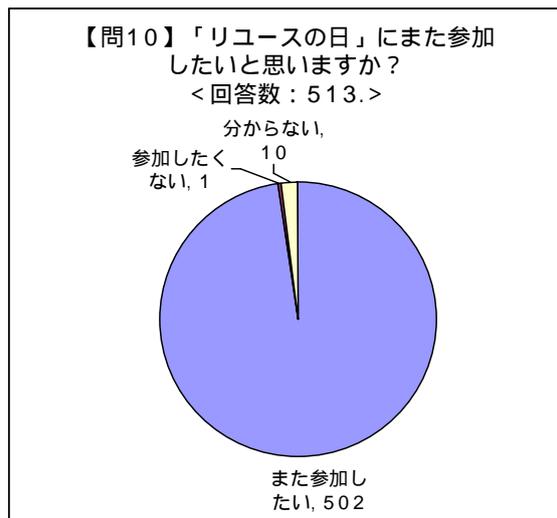
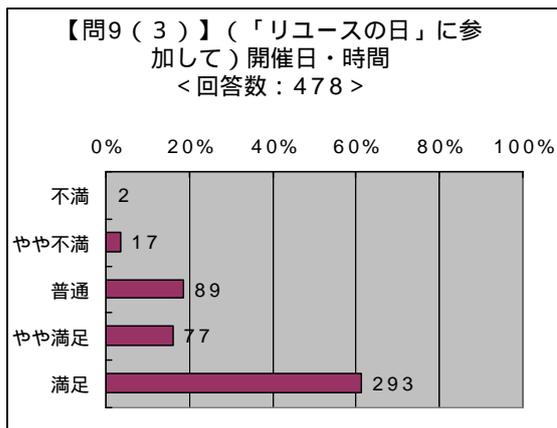
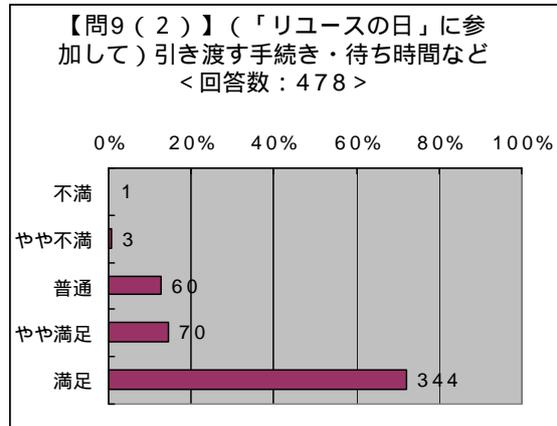
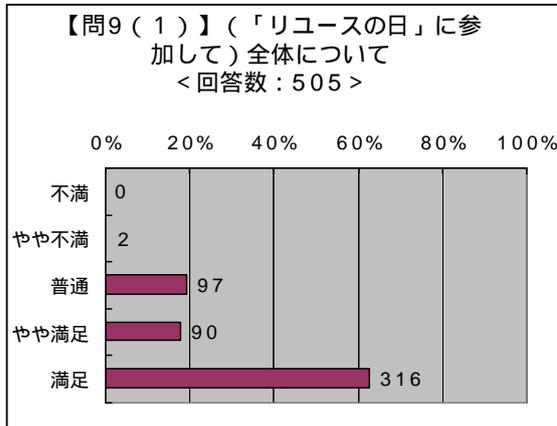
内容について期待することは、「今回と同じでよい」が56.9%、「リユース品の販売もおこなう」が32.2%、「3Rについて学べるイベントの開催」が8.2%だった。



カ．参加者の満足度

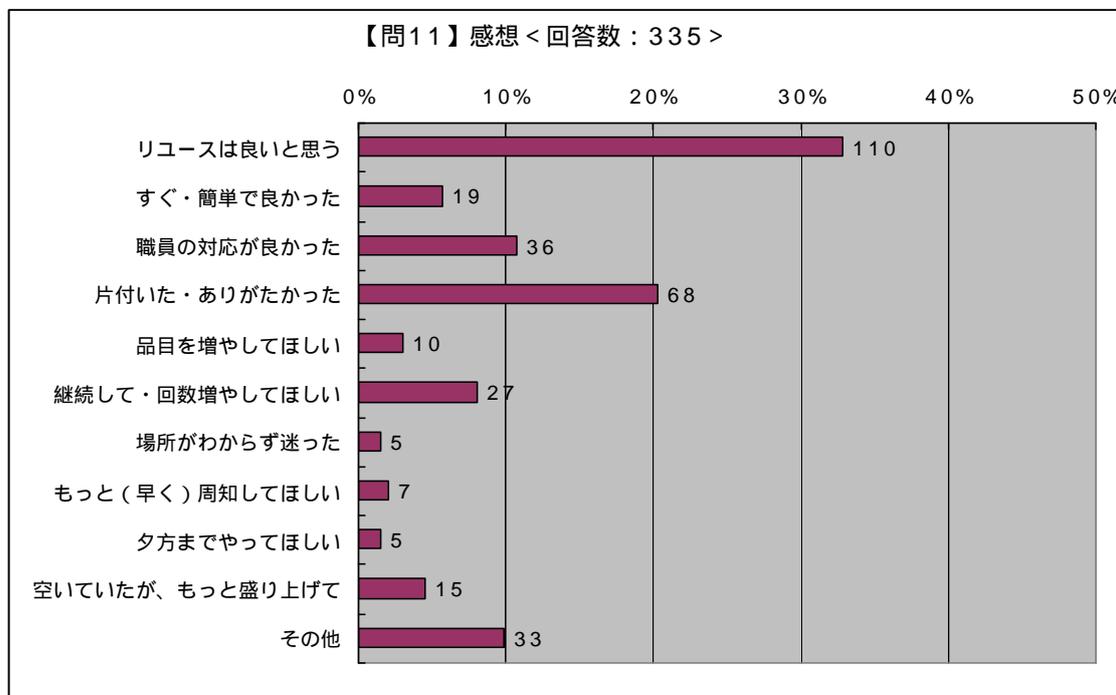
全体・引渡し・開催日・時間について、「満足」「やや満足」とする回答が多かった。開催日・時間については、拡大を希望する意見も寄せられた。

「また参加したいと思うか」という問については、「また参加したい」とする回答が97.9%だった。



## キ．参加者の感想

感想（自由記述）の傾向としては、リユースの取り組みについて賛同する声が多かった。また、「家が片付いてありがたい」など、「リユースの日」の趣旨とは異なった視点での感想も見られた。



## その他の意見（抜粋）

- ・子どもと来ると、物を大切にできる気持ちが出てくると思います。
- ・チェックなく全て引き取って頂けてよかったけど、使ってもらえるのか心配。
- ・引渡し時のチェックを本人の前でおこなわないと、ゴミ持込みの可能性もあるのではないかと。
- ・活用の内容がわかると良い。品物は、海外のボランティアに利用するなどしてほしい。
- ・(町内会の)役員がまとめ、運搬をしたので集まったが、(知らせがきてから当日まで)もっと日程にゆとりがほしかった。

**「リユースの日」参加者アンケート**

本日はご参加いただきありがとうございます。「リユースの日」は、市と事業者が協力してリユースを促進するための実証実験として、リユース事業者にご協力いただくことで、幅広い品目を取り扱うことができています。

今後もリユースの取り組みを広めていくために、アンケートへのご協力をお願いします。

◆本日お持ち込みいただいたものを教えてください。【あてはまるものすべてに○】

スキー板/ウェア ・スノーボード/ウェア ・サーフボード/ウエットスーツ ・ゴルフクラブ/バッグ  
釣り用品 ・キャンプ用品 ・スポーツ用品( ) ・楽器( )  
子ども用品( ) ・キャリーバッグ ・本 ・衣類 ・くつ ・かばん/さいふ ・ぬいぐるみ  
携帯電話 ・デジタルカメラ ・ゲーム機 ・DVD デッキ ・家電( )

◆お住まいの地域(町名)を教えてください。 町田市( )

問1 何を見て「リユースの日」を知りましたか?【あてはまるものすべてに○】

広報まちだ ・ ECO まちだ ・ 町田市HP ・ チラシ ・ 会場の看板  
友人・知人から聞いた ・ その他( )

問2 お持ちいただいたのは、どうしていたものですか?【1つに○】

1. 他の人に譲ったり、中古品を扱うお店などに持ちこもうと思っていたもの  
2. 片付けるきっかけがなく、ずっと保管していたもの  
3. 近々ごみとして捨てようと思っていたもの  
4. その他( )

問3 市内には中古品を扱うお店(リユース事業者)などありますが、今回「リユースの日」への持ち込みを選んだ理由はなんですか?【あてはまるものすべてに○】

1. 会場が近いなど、持ち込みに便利だから  
2. 清掃工場や「リサイクル広場まちだ」への持ち込みのついでに寄れるから  
3. 中古品を扱うお店を知らないから  
4. 中古品を扱うお店では、引き取ってもらえるかわからないから  
5. お店等に持っていくと手続きが大変そうだから  
6. 市が広報していたから  
7. 市の事業なので、安心して引き渡すことができるから  
8. 「リユースの日」の趣旨(ごみを減らすこと)に賛同・協力したかったから  
9. まだ使用する人がいれば有効に利用して欲しかったから  
10. 無料で引き取ってくれるから  
11. その他( )

引き続き、裏面もご回答ください。

問4 引き取りが無料であることに、どのような印象を持ちましたか?【1つに○】

良いと思う ・ 良くないと思う ・ わからない  
→理由( )

問5 お持ちいただいた製品は、まだエコライフ推進公社がお預かりし、公社や協力事業者の手でリユースされます。幅広い品目をリユースできるように公社と民間事業者と市が協力・連携していくことを、どう思いますか?【1つに○】

協力していくべき ・ 協力には抵抗感がある ・ 協力する必要はない ・ わからない  
→理由( )

問6 本日お持ちいただいた製品の他に、リユースしたいと思っている品目はありますか?【あてはまるものすべてに○】

※具体的な品目があれば、( )内にくわしくご記入ください。例:(テーブル、文具)  
大型家具 ・ 電化製品 ・ 日用雑貨 ・ おもちゃ ・ 趣味の道具 ・ その他  
→具体的には:( )

問7 今後(来年度)も継続して、「リユースの日」を定期的に開催することについて、どう思いますか?【1つに○】

継続してほしい ・ 別の形で開催してほしい ・ 継続の必要はない ・ わからない  
→理由( )

問8 今後(来年度)も「リユースの日」が開催される場合、製品の無料引き取りのほかに、どのような内容を期待しますか?【1つに○】

1. 今回と同じで良い  
2. 引き取りの他に、リユース品の販売も行う  
3. 会場内で3R(リデュース・リユース・リサイクル)を学べるイベントを開催  
4. その他( )

問9 リユースの日に参加していかがでしたか?【各項目、1つに○】

	満足	普通	不満
1) 全体について	5—4—3—2—1		
2) 引き渡す手続き・待ち時間など	5—4—3—2—1		
3) 開催日・時間(週末の午前9時から午後3時)	5—4—3—2—1		

問10 「リユースの日」にまた参加したいと思いますか?【1つに○】

また参加したい ・ 参加したくない ・ わからない

問11 最後に、「リユースの日」に参加した感想を教えてください。

[ ]

ご記入ありがとうございました。

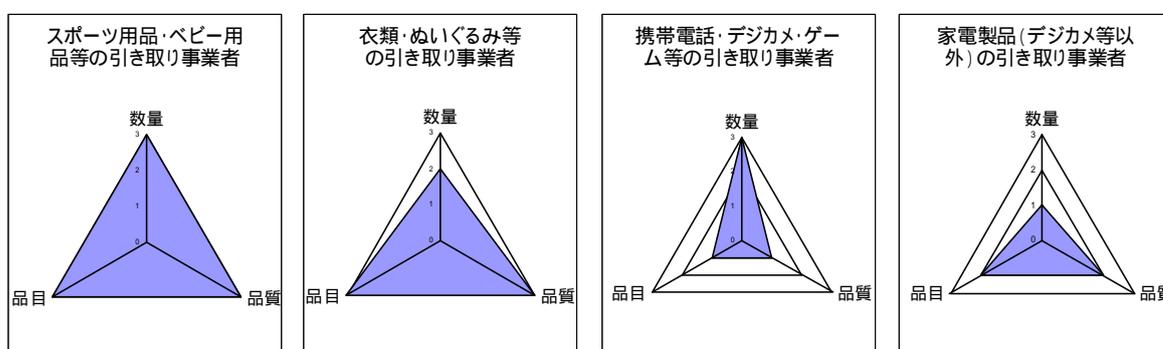
## 協力リユース事業者の意見、見解

## ア．本事業に対する評価と意見・感想

公社は、準備・当日の対応・片付けの件費等を含めると、リユース品引き渡しの収入では採算がとれなかったとのことだった。毎月2日間で8万円を超える収入があり、スポット的ではなく、準備等に時間をかけず効率的な方法で実施することができれば、採算の取れる可能性があるとのことだった。

各事業者に、本事業での買い取りについて、数量・品質・品目の3点で評価してもらったところ、扱った品目によって評価に違いがあった。

## 事業者の評価（3が「良かった」、2が「普通」、1が「悪かった」）



数量について「悪かった」とした事業者は、「(持ち込みが)少ない中でも、年数制限をオーバーしている物やすでに壊れている物もあり、成立点数としては更に少なくなった」との評価だった。その他の事業者からは「見込みには達していないが、最低ラインはクリアした」などの評価があった。

品質と品目について「悪かった」とした事業者は、「(品数は多かったがリユースに耐えるものは多くなく、)ビジネス目線で考えると、品質、品目的には厳しい内容だった」との評価だった。

その他には、「普段店頭では持ち込まれにくいものが多く集まった」、「品目を指定できたため、当社の業態に合ったリユースしやすいものが集められた」、「店舗での買取と大差ない」、「品質は、12月 1月 2月と開催毎に低下傾向。逆に品目は、徐々に浸透した為か、開催毎に多少増加した感じ」、「買取した商品は、少し動作不良の物もあったがリユースできる物が多かった」、「製造年数の制限を設けたため、持ち込みが少なかったのではないか」などの評価があった。

事業全体に関しては、全事業者が「良かった」と評価した。買い取りについて「悪い」と評価した事業者も含め、全体としては「良かった」としていた。「来場者の方も多く、ニーズのある取り組みであると感じた」、「取り組み自体は非常に興味深い」などの感想があった。

## イ．今後の連携、展開について

公社は、事業者と連携してリユースをおこなうことについては良かったと感じており、今後も連携して事業を行いたいとの意向だった。

公社としては、現在ある制度や場所を活用して実施できないか検討することだった。常設のリサイクルできる品目の回収拠点（リサイクル広場）で回収し、一定量が集まった段階で事業者へ引き渡すなどの方法を検討したいとのことだった。課題としては、回収する品目の限定、ストック場所の確保、その他条件の整備といったことがあげられる。

「今後も公社や町田市と連携する意向はありますか」という質問に対し、全事業者から「今後も連携したい」という回答が得られた。いずれの事業者も、行政がおこなう取り組み自体への関心や、行政との連携することに関心があったことをあげていた。行政との連携に対し積極的なコメントと、本事業の今後の展開へ期待するコメントがあった。

## 行政と連携することについて

・リユース業としてネットワークを活かして社会貢献ができるということは、当社の企業理念と合致。また当社本部も近く、迅速で柔軟な対応も可能。  
 ・行政と一緒に何か取り組みが出来ないと社内で思考しており、実績を残せた事は非常に有り難い。今後各行政への提案を進めて行く中で、実例としてご活用させて頂き、展開を図っていく。

## 今後連携するうえでの課題や提案として、下記のようなコメントがあった。

・計量に関しての仕組み・管理・精度が課題。  
 ・定例化の際は、実施現場として天候の影響を受けない設備・施設が望ましい。  
 ・場合によっては現地立ち会いが難しい。よって、貴社に一部ご協力を頂く事での解決、仕分けの有無から全量引き取り等、市民から引取りした後の各事項の再調整が懸念される。  
 ・そもそもの持込量が少なくビジネスとしてはきびしい結果となってしまいましたが、受け持ちの品目数等によっては継続の為の検討を社内でおこなっていきたくて考えています。  
 ・同地域での毎月開催となると回収量も頭打ちになるように感じました。2ヶ月に一度か3ヶ月に一度(1シーズン毎)程度の開催のほうが効率良くできるかもしれないと思いました。  
 ・今後は複数箇所もしくは開催日ごとに回収地点を変えることで、市民の皆さんが来やすくなるのかなと思いました。  
 ・(平日の実施など)日程に選択肢が増えると住民も利用しやすいのではないのでしょうか。  
 ・近隣市区とも協賛できると、回収可能場所が複数になる事で、集まるものも変わってくると思います。  
 ・今後市や町には買取をする企業がどんどん増えていき、住民・消費者にも様々な選択肢が増えて行くことと思います。リユース企業の認知が進むほど無料引き取りの本事業は来場者が減る可能性もあります。

### 3. モデル事業の成果・課題（まとめ）

#### （1）成果

##### <ごみの減量>

- ・ 持ち込まれた製品のうち、衣類・本を除きほとんどがごみとして収集されているものであるため、リユース事業者に多くの製品を引き渡したことで、ごみの排出抑制につながった。
- ・ 市が周知してリユース事業を実施したことで、積極的にリユースを考えていなかった市民がリユースに取り組むきっかけになった。

##### <事業に対する理解>

- ・ アンケートで「使用する人がいれば有効に利用してほしい」「趣旨に賛同・協力したかった」との回答が多く、リユースに理解のある市民に、多く参加してもらえたことが分かった。
- ・ 今回の実施方法について、参加者はおおむね満足していた。今後の開催を希望する意見が多く、市民にとっても有意義な取り組みとして捉えられていると考えられる。
- ・ 中古品店と違い無料での引き取りであることについて、市民の理解を得られていた。
- ・ 事業者からは、買い取りについての評価に関わらず、事業については「良かった」との評価が得られた。取り組みの趣旨について、事業者の理解を得て実施することができた。

##### <事業者との連携>

- ・ 市が、公社と事業者と連携することについて、参加者の理解を得られていることがわかった。連携によりリユースが促進できることを PR して事業を進めることが効果的だと考えられる。
- ・ 本事業をきっかけに、市と公社と事業者との連携のための関係構築ができた。
- ・ 事業者に価格をつけて買い取っていただいたことで、公社が事業を実施するにあたり、開催方法次第では採算のとれる可能性があることがわかった。
- ・ 事業者が、行政との連携に関心を持っており、今後も、展開次第では連携を考えていることがわかった。
- ・ 事業者にとって、事業形態や取り扱う品目によっては、有効な商品仕入れルートとなる可能性があることがわかった。
- ・ 事業者の店舗でのチラシ配布など、事業者との連携を更に広げていくことが可能なことがわかった。

##### <今後の展開>

- ・ 扱うことに向いている品目（リユース品として流通させやすい品目）、リユースが難しい品目がそれぞれわかり、今後リユース事業を推進するうえでの参考になった。
- ・ 地域で住民が声を掛け合ってリユース品を持ち込んだ例もあった。広報紙やチラシなど

による周知とともに、地域での回覧等を組み合わせることで、より多くの市民に参加してもらえと考えられる。

## (2) 課題

### <対象品目>

- ・ 持ち込まれた製品でも、品目によっては事業者でリユースできない製品も多かった。対象品目や条件を精査し、リユースできない製品の持ち込みを減らす工夫が必要である。
- ・ 持ち込んだ市民とリユース製品を商品として販売する事業者とでは、「使用可能なもの」などのあいまいな条件の認識に差があることがわかった。認識の差が生じないように工夫して示す必要がある。
- ・ 事業者にとっては、引き取る対象品目によりビジネスとしての可能性に大きく差が出るのがわかった。事業者との連携の際には、調整が必要になる。
- ・ 買い取り時には高値がつくものであっても、全体として引き取ってもらえない可能性の高い品目があることがわかった。対象品目の選定時には、リユース促進の観点から慎重に検討する必要がある。
- ・ 対象品目については、市民からも事業者からも、多様な希望が寄せられたが、リユース促進の観点から慎重に検討する必要がある。

### <実施方法>

- ・ リユース事業の趣旨にそぐわない製品（明らかにリユースできない状態の物など）の持ち込みの防止策を強化する必要がある。リユース事業について理解を得られるよう、周知方法や受付方法などを工夫しなければならない。
- ・ 引き取られた物がどのようにリユースされるかわかりづらいとの意見があった。事業の仕組み、リユースまでの流れなどを、わかりやすく周知する必要がある。
- ・ 持ち込みが難しい市民（遠い、車が無いなど）から、開催方法・場所に関しさまざまな要望が寄せられた。また、事業者からは、開催場所を増やす提案があった。移動リサイクル広場など他の施策と絡めるなど、工夫の余地がある。
- ・ リユース品が風雨の影響を受けない会場や、開催頻度など、事業者の協力を得やすい開催方法を検討し、詳細事項を調整して事業をおこなう必要がある。

## (3) 今後の予定

- ・ 本事業の結果をふまえ、リユースの取り組みを推進する。
- ・ 本事業により関係構築ができた事業者と、今後も連携しながらリユース事業を進める。
- ・ 家電のリユースについては、小型家電製品の回収と合わせて検討する。